

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月5日

【評価実施概要】

事業所番号	0372300327		
法人名	特定非営利活動法人ともにあゆむ会		
事業所名	グループホームぶどう苑		
所在地	〒028-3203 岩手県花巻市大迫町大迫1-4-55 (電話)0198-36-1781		
評価機関名	特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年10月27日	評価確定日	平成21年1月5日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成	16年	12月	7日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	18 人	常勤	11 人,	非常勤 7 人, 常勤換算 13.9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000	円	その他の経費(月額)	理美容、おむつ代等実費		
敷金	無					
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無			
食材料費	朝食	250	円	昼食	300	円
	夕食	350	円	おやつ	150	円
	または1日当たり		1,050 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	6 名	要介護2	5 名			
要介護3	4 名	要介護4	2 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	79 歳	最低	67 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩手県立中央病院附属大迫地域診療センター、西尾歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大迫総合支所に隣接し畑や穏やかに流れる稗貫川の河川敷に面した、のどかな風景の中にある事業所である。事業所からはなだらかな傾斜に広がるぶどう畑の景色が一望できる。小規模多機能事業所が併設されているほか、玄関ではメンバーの一員である愛犬の「モモ」も出迎えてくれる。このような環境面は利用者の日々の活動や楽しみに大きく活用されている。大迫地区全体での事業所の認知度はまだまだとしているが、近隣の住民とは非常に良好な関係が築かれており、今年度は地域の協力を得て大きなイベントを実現している。また職員は2つの委員会に分かれて行事や日々の取り組みについての検討を重ねており、経営者や管理者も職員個々の意見を活かしていきたいとの思いがある。豊かな自然環境と近隣住民との確かな信頼関係を背景として、職員が「できることはなんでもやっという意欲をもってサービス向上に取り組んでいく姿勢が感じられる事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価では、職員における日頃の理念の意識が話題となっており、今回の評価で話題となった理念の独自性、具体性とあわせて今後さらに検討することとしている。また自己評価の実施方法について、前回は経営者および管理者がまとめるやり方であったが、今回は職員にも分担してもらい、より事業所全体の共有が進む取り組みとなっている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の取り組みでは、事業所の運営面に関する要素が多い前半部分は管理者が担当し、現場的要素の多い後半の項目は主任が中心となりながら、職員全員が分担して自己評価を実施した。職員にとっては初めての取り組みだったが意外とスムーズにまとめることができ、日々の実践の振り返りになっている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地区の老人クラブ支部長、市区長会副会長、包括支援センター職員、民生委員等の地域メンバーに加えて、家族や職員が参加者となり実施している。主に事業所の運営状況を報告しているが、事業所ではもっと参加者の率直な意見を得る場にしていきたいとの思いがあり、民生委員からも地域に開けた会議となればとの意見が出されている。参加者やテーマなど、もっと柔軟で自由な枠組み設定も考えられるほか、地域の一人という立場での「地域づくり」の場として参加者に活用してもらうことも有効と思われる。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) これまで家族からはいくつか意見を得られているものの、多くの場合は「事業所におまかせします」といわれる状況もあり、事業所や利用者に対する家族の関心は高くはない。家族の負担に配慮する一方で、利用者への支援は決して事業所のみでの取り組みだけではなく、家族の協力も重要であることを粘り強く伝えていってほしい。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所の周囲は花の植えられた道や、冬には白鳥が訪れ桜の木も並び立つ河原があるなど、一年を通じて散歩に適した環境となっており、利用者や職員は日々散歩で歩きかう地域の人たちと交流がある。また事業所の最大の年間行事であるBBフェスティバルでは多くの地域住民から参加が得られており、それを機に日々の協力も進んできている。地区内の助け合いが根付いている地域性を背景として、自然で確かな交流関係が築けている。

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人開設時に「障害があってもその地域の一人として生活することができること」を理念として定めている。	○	地域密着型として重視する部分や具体的な要素などがあると、より事業所の姿勢が明確になるものと思われる。職員個々で、これまで意欲的に取り組んできたことの何が理念に通じるものだったか振り返ることも、理念の具体化につながるかもしれない。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を話題とした会議や研修などにおいて、職員が利用者の第2の家族であることを確認し合っている。また理念は入り口正面に掲示し、利用者にもわかりやすいものとなっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に200年続くあんどん祭りには利用者及び職員も参加しており、地域住民からも様々な配慮をしてもらっている。また併設の小規模多機能事業所と合同で実施したBBフェスティバルは地域の商店や中学生ボランティアの協力も得て、約200人が集まる盛大なものとなった。大迫地区全体のなかでの事業所の認知度はまだまだとしている。	○	多くの近隣住民から賛同を得てのBBフェスティバルは、職員の意欲的な委員会活動が起点となっており、その創意工夫あふれる企画と実行は素晴らしいものがある。地域における認知症やグループホームの理解はまだ十分ではないが、祭りを中心とした住民との交流から徐々に理解を得ていってほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価においては、管理者や主任が中心になって職員全員が関わっており、職員においても普段の見直しとしてや、利用者のための視点・職員間の連携を検討できる機会となっている。自己評価の結果としては、今後工夫していきたいこととして家族との関わり方や地域との災害体制づくりなどが挙げられている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	現状では必ずしも定期ではないが、家族や職員の他に老人クラブ支部長、市区長会副会長、包括支援センター職員等をメンバーとして実施している。直近の会議では利用者状況やヒヤリハット事例、行事、外部評価実施準備について報告し、運営面の適切さを計ってもらった場となっている。今後参加者からより自由に意見を出してもらえらる方法も検討したいとしている。	○	事業所の状況を地域の人たちに理解してもらうことも重要だが、地域にとって課題となっていることの話し合いの場を提供することも意義がある。また「楽しさ」を生み出すことに秀でた事業所であれば、地域の楽しみという観点でテーマを検討してよいと思われる。事業所も参加しての「地域づくり」という視野での取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催する地域ケア会議に参加し、地区内の他事業所との情報交換や事例検討の場となっている。また市の介護保険課には何か疑問があるたびに問い合わせ、具体的なアドバイスをしてもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月家族には請求書とともに手紙を送り、日々の様子や体調、写真等を報告しているほか、家族が来た時には金銭管理の状況も含めて様々なことを話している。特にイベントや外食時の本人の印象的な様子や、家族の関心が高い利用者の健康面などについては細かく伝えるようにしている。	○	毎月の支払いの内訳を理解していない家族もあるため、何かしらの機会を設けて説明することを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	これまで出された苦情は多くないが、「駐車場に停められないことがある」、「細かなことはちくいち報告はிரらない」等の意見が出されたことがある。また家族の意見をもとに受診時には普段の様子を主治医に伝える情報提供の書類を持って行ってもらうようにしている。	○	家族からの意見は決して多くはなく、事業所としてはもっと言ってもらえればとの思いはある。利用者と家族の結びつきを支援する上でも、家族への様々な報告や丁寧な説明と共に、家族が事業所により関心を持ってもらえるよう粘り強い働きかけを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニット構成で第2ユニットは4月に新設され、併設の小規模多機能事業所も同時期に開設されたため、春頃は法人全体としての職員異動は多かった。しかしそれ以降は職員総数も増えたことで委員会活動を実施したり、夜勤時も併設事業所も含めて3人体制となるなど、サービス向上の仕組みや職員に過度の負担がない状況が実現している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を2か月に1回実施し、認知症や薬剤、救急対応などについて学んでいる。職員が外部研修に出た際には、その内容を内部研修で報告し、全職員の学びにつなげている。学ぶ内容は各ユニットで考え、職員の希望を活かすようにしている。また職員の資格取得に関しては、受験前は勤務シフトを調整するなど間接的にバックアップしている。	○	イベントの計画などでは職員から様々なアイデアが出され、当初の予定よりも盛大な実施に結びついており、その創意工夫と意欲は事業所の大きな強みとなっている。また家族からも職員に対して「生き生きとしている」と好評が得られている。今後も職員の自主性と意欲を育む姿勢は大事にしたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会、花北ブロック会議に参加しており、情報交換や実践発表を通してサービス向上につなげている。また協会の事務局からは何か疑問があるときには教えてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	小規模多機能ホームぶんどかんの機能を利用(通所、訪問、短期入所など)しながら、グループホームに徐々に慣れてもらう方法をとっている。また家族にも納得して利用してもらうことも心掛けている。今後は利用者にとっての居心地のよさを考慮して、ユニット間のメンバー調整も視野にいれていく予定である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員は高齢の利用者より畑のことや昔からの慣わしごとについて教わることが多い。利用者と職員は時に友人感覚であったり、孫のような存在であったりしている。普段気難しい利用者でも、冗談話をできるようなときは職員の喜びにもなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護記録に利用者の様子を記載することで日々の状況を把握し、利用者の好きなこと・嫌いなこと、得意・不得意を見極めながら、毎日の暮らしに配慮している。訪問日当日の食事の場面などにおいても利用者に対する職員の気配りが感じられた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者に生き活きと暮らしてもらうための努力をしている。生活歴や趣味を把握し、笑顔に結びつくような工夫、支援をしている。歌の好きな人、屋外の仕事や農作業が好きな人など、個々の介護計画に反映させている。	○	家族の介護計画への意見は少なく、家族の関心や理解をより得ていくためのプロセスを検討していくことが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとにケアプランを見直している。また、月1回のスタッフ会議で利用者のケア内容について話し合い、すぐに見直しが必要な場合は家族に電話で相談し、ケアに結びつけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診は原則として家族に付き添いをお願いしているが、家族が難しいときは職員が付き添うようになっている。また利用者の状況や要望によっては、併設の小規模多機能の活用も検討しながら柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の時点でかかりつけ医を事業所近隣の医療機関に変える利用者もいるが、家族や本人の希望があれば以前からのかかりつけ医を継続している。また、受診時には利用者の普段の様子や健康面の情報を伝えるものとして、情報提供票を医師に渡している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応については、今後事業所で取り組んでいくという方向性を家族に伝えている。具体的な対応方法はこれから検討していく予定であり、そのなかで医療機関との連携は今後の課題としている。	○	理解が得られる医療機関と、時間をかけて関係づくりを進めていってほしい。また、対応の指針や利用者及び家族の意向確認の方法など、今後の具体的な取り組みが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ介助やリハビリパンツを使用している利用者には、排泄時のプライバシーに留意した対応を心掛けている。また、排泄のリズムを把握して、さりげない声掛けをすることにより、できるだけ汚すことのないような支援を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	畑仕事を楽しみとして自主的に行う利用者があるほか、縫物、花の水やり、文化祭の作品作りなど、各々がやりたいことをして過ごしている。また小規模多機能のほうで行われるレクリエーションにも自由に参加できる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ユニットの希望を月に1度取り入れて食事に楽しみをもたせている。準備や後片付けはその人ができることを手伝っており、訪問日にも利用者が自然に作業している様子がうかがえた。また食事委員会では日々のメニューを検討するほか、イベント時の食事もよく話し合われ、スイカ割りや流しそうめんなど食事が楽しくなるよう工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	おおむね1日おきに入浴しているが、入るか入らないかは本人の希望にそっている。疾患があり毎日入浴が必要な利用者には対応している。入浴拒否がある利用者には、気分が良さそうな時に勧めるなど工夫している。またシャワーが習慣になっている利用者には、毎日シャワーを利用している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの生活歴を参考にして、得意分野で日常生活に力を発揮してもらい(皿拭き、畑仕事、掃除)、それが生きがい作りにつながっている。またレク委員会で日々の生活に活気のある場面づくりを検討している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状態にあわせ、散歩、畑仕事、商店街まで出かけている。車いす利用者にも散歩中日向ぼっこを楽しんでもらっている。外食ツアーも企画しており、花巻の中心街や石鳥谷まで出かけることもある。回転寿司はみな楽しみにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中は施錠しておらず、夜間のみ鍵をかけている。利用者の外出には見守りに対応し、職員体制に余裕がないときは玄関のチャイムがなるようにしている。一人で自由に近隣の散歩する利用者もあり、近所の人たちも顔を覚えてくれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練を実施しており、消防署からは緊急時の利用者誘導で毛布をつかう方法や、避難したかどうかの目印として枕の活用などに関してアドバイスを得ている。	○	近隣の住民や行政にも協力が得られるよう今後関係づくりが期待される。また運営推進会議でも話題とし、どのように協力をお願いすればいいか検討してもらうのも有効と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理師が中心となり、1日30品目を目標にバランスのとれた献立としている。食事量、水分量は介護記録でチェックし、特に水分摂取は利用者にあわせて牛乳、お茶、スポーツドリンクを薄めたものなど、とりやすいように工夫している。また週に1回、歯科医の往診があり、入れ歯の調整等を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は明るく、中から周りの自然を眺めることもでき、静かで落ち着いた雰囲気である。テーブルも分かれて複数設置され、利用者がそれぞれ気に入った場所を確保できるよう配慮されている。ユニット間の行き来もあり、イベント時は1階の第1ユニットに集まることが多い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品物を持参してもらうように働きかけをしており、仏壇を持ってきている利用者もいる。また居室には洗濯物が干せるような室内用物干しを用意しており、使い勝手が良さそうな印象を受けた。	○	利用者にとって馴染み深いものを部屋に備えるには家族の協力が必須であり、今後事業所でも家族に働きかけたいとしている。